

ニュース
帰村宣言の川内村で
移動店舗運行開始
コープふくしま

福島県双葉郡川内村は、東京電力福島第一原発事故により、警戒区域と緊急時避難準備区域に指定されていました。除染によって生活が可能と判断し、2012年1月31日に「帰村宣言」を出しました。

しかし、放射性物質への抵抗感や、買い物施設などの住環境が整っていないため、12年11月現在、帰村し、生活を再開しているのは約4割にとどまっています。

コープふくしまは12年10月から同村での共同購入(宅配)の運用を続けていますが、「店舗」として食品を取



初回運行時には、川内村の方々にコープ商品について知ってもらうため、コープふくしま野中俊吉専務理事らが試食の提供を実施。

り扱う施設がないのが現状です。そこでコープふくしまは、さらなるお役立ちのため、13年4月14日から毎週日曜日に、移動店舗の運行を開始しました(車両は、平日に福島市、二本松市、国見町で使用されているものを使用。ならコープ寄贈)。同年10月頃まで運行を続ける予定です。

また、運行にあたり日本生協連職員が毎回2人体制で、コープふくしま職員の補助のボランティアに入っています。

販売先では、「店舗が遠く、今までは冷凍食品が買えなかったのだけれい」「山道を通って買い出しに行っていたが、子どもが車酔いをして困っていたのでありがたい」などといった声が聞かれました。



レジを打つコープふくしま職員。レシートが発行されることも好評だという。

ニュース
福島県産品四品目の
取り扱いを予定
東海コープ事業連合



果樹園を見学する「福島県産地視察学習」の参加者。

東海コープ事業連合では、2012年度より福島の桃の取り扱いを通じた復興支援に取り組んでいます。13年4月11日、12日に行なわれた「福島県産地視察学習」では、東海コープ事業連合の会員生協の職員が福島県を訪れて現地生産者や農協関係者の声を聞き、商品販売に生かすために桃の栽培の歴史や除染作業についての説明を受けました。

また、参加者は、コープふくしまのコープマート保原(伊達市保原町)、

コープマート新町(福島市新町)、コープマート方木田(福島市大森)で展開されている「東海フェア」(東海地方の青果を販売)の様子を見学。フェアは今回で8回目、以前より行なわれているコープおおいとの「大分フェア」と、交互で開催されています。

13年度、東海コープ事業連合では桃に加え、ぶどう、りんご、米の取り扱いも予定しています。それぞれの品目に関する勉強会や視察も行なっていくとのことです。米は田植え期や稲刈り時期に、桃・ぶどう・りんごは6月に職員による生産現場の視察・確認や組合員の産地訪問を行ないながら、それぞれの様子や視察結果などを小まめに広報し、利用を広めていく予定です。



コープマート保原の「東海フェア」ディスプレイ。